



卷永武歲癸巳歲

己未神月吉禮日

己未年
六月十五日
取方人備
此之休養久則

和漢韻藻集卷上

春

立春 早春 春風

春夜 子日付日 三月首付日

暮春 三月盡 閏二月

驚霜 西海 柳

花付落

蹴踏款冬

藤

夏

更衣

荷夏

夏初

端午

纳凉

晚夏

花楼

莲

郭云

登

蝉

扇

秋

立秋

早秋

七夕

秋真

秋晚

晚秋

八月廿二日

初月九日

九月廿五日
露花秋景

橙方裁

紅葉付落

雁付鵞為出

露 露

廣

持衣

冬

初冬

冬夜

歲暮

爐火

霜

雪

冰付美

爰

佛一名

春

立春

逐吹韶用約芳菲復逐

春戶裝將希雨落之思

池凍凍頭風為春梅出君封

柳生氣力深老動地有似水

今身不知誰計春風亂

篤茂

公羊

夜の静けさ
心ゆくわらわらふはまふらりひのけ
神いらいとひとひのけ
美さるるのふらりやみ
山をくるとそけきはとゆる

早春

氷消り地も温む枝條柳眼位
先春の風軽省自は徳者端鳥は

東岸の面影 柳をまき速く

枝の枝と梅開花の

はるかなる春の光景

空を舞う新柳の葉

庭の草花も咲き

いそぎに春の光景

やうやくと春の光景

正澄

志貴皇子

都長命

野根公

保胤

元嶺

忠亨

曾之

元方

とらぬれわのやまのあやあししとて
久しうみし縁やののこりあ
朝恒

子日 付あ茶

倚松樹に座し騰る鳳を雜花

和茶を巻る暖は期氣味を玄園

依松根の蔭に獨り坐し茶酒を

折梅をむら採頭二月は雪をあふ

縁乃ひしとらぬれわのやまのあやあししとて

子日 付あ茶

縁乃ひしとらぬれわのやまのあやあししとて

若菜

野中毛茶母事推し慈心抱下

和茶俗人余の裁指

わとらぬれわのやまのあやあししとて

わとらぬれわのやまのあやあししとて

能宣

清正

菅菴

人丸

赤人

梅さすてとぬ人さしめりてさるる人さしめりて
つこころにつれりさるる人さるる人さるる人さるる人
豊

三月三日 付 桃花

春來雪色桃紅紫王維 綠柳深紅似雪香

去年雪色月三朝 天醉千花桃

李風也 我后一日是 澤水橫鏡出

水難知李白 春風難絕白居易 字字知

此物思教人 欲風流盡志李賀

後如小序李賀

煙霧蒙蒙上春風 桃李清香如粉紅僧叢相

水成色字物 自有清香國白居易 遠近相

礙石來來心 猶待春風送岩雅規 過客心

新雨色色色 色色色色色純納相 色色色

風聲色色色 色色色色色

色色色色色 色色色色色 色色色色色 色色色色色
新恒

暮春

拂水柳花存芳迹海傍多春夜

低翔鸛鶴為曉粧野馬春深

人無亦何須惜年空老

割白鳥秋今日好春風

三月夜

三月夜

留春人無事

賦風之不足也

竹院春未消

個快去海

子長不用物

每以秋光

每以秋光

うふのまけけりておもひ
きりりこもをさ花のうけり
もかもみからりあはれ
あつさししそりあ
まことこひしんたうし
あふりあしあま
世具之

朝恒

閏三月

今年閏三月
新刀欠後
降新秋鳥
祥林
源順

花柳梅
うはあ
人のこりよあ
伊勢

巻

鶴鳴
惟家
茂人
周芳

さよふらうしんふんけ
うらうのやまんをらうま
きうんそそあわいほこ
うのふよ言のあり
あさひはさしはあゆま
らふのうすこハキまひ
まよる

雨

式垂花下流増雲子之悲時
舞花の暗動満高の思
長樂遠花の夜花の思

都在中

李秋

卷詩自為花每以朱宣
雜葉者に

花新開月物陽洞馬老蹄
何為春

斜照暖風之扇
夜時

わをやまきのえさうくも
あは

梅付お物

白河の梅浮洞は
あは

梅花若雪香凝粉 御衣和烟入酒中 音老標

浙量蘭宮新封裏 依宿春風夢未醒 カ村土柳製

青綠深紅陶 梅白玉妝成 處處春 後西相公

空殿香凝 世本但懷 不度可株香 久世三郎

誰言春色 應深東 如海 故有 梅枝 花 如 蘭

いあしやうし 梅のうらみ 梅のうらみ 梅のうらみ 安徳廣庭

わうせこころ 見え ちやうと ちやうと ちやうと ちやうと 赤人

かとき ちやうと ちやうと ちやうと ちやうと ちやうと 赤人

红梅

梅合 鶴古 益 紅 氣 乳 異 瘦 花 在 若 路 不 又 元稹

浅 紅 鮮 始 仙 方 々 香 婉 々 濃 香 爲 橘正通

若 竹 舒 枝 始 々 衣 讓 香 云 前中書王無明

肖 也 可 矣 々 始 々 香 底 昔 情 難 ぬ 文 詞 中 紀原分ヒラキ

仙 風 生 々 始 々 野 梅 火 暖 未 湯 梅

鄰路

昨兼為用経路弱秋房物はとまき
夜毎人言の采花並大倉を打ちひる
おまひつらうとあとのやまの思つし
いづのいづをあまこひきさのいづ
平貞文

款冬

然者唯黄天も款冬に堪はるる
書つた者も相扶け紙書す
保胤

あつたあつたあつた
いづやううん山あつたあつた
わらわのやまの屋うらまへ
あつたあつたあつた
無盛



懐古思ひ月あつたあつたあつた
紫草ゆき朱衣をたかき
はるなは度病む
かきしつてゆうひあつたあつたあつた
人丸

あまのつらさうらみあはれしうらみあはれし
あまのつらさうらみあはれしうらみあはれし

夏

更衣

宵涼花林鐘有猶香箱簪也海年名
生衣欲約ひか老有穠苗振也老解
うさかのまろくそりたをこの行か
ころもろくうさふもあろうか
重之

首夏

鹿頭以東海有就涼屋也敷衣色
昔生衣の持衣種は先代公小衣跡
とやとやとやとやとやとやとやとや
あつたはよきりしとゆうのよか
順

夏衣

風吹花衣色あはれしうらみあはれし
風吹花衣色あはれしうらみあはれし
あまのつらさうらみあはれしうらみあはれし

まの乃と福ぬまのまねとひひま
かへまのまねとやまのまねとひひま
かへまのまねとやまのまねとひひま
かへまのまねとやまのまねとひひま
かへまのまねとやまのまねとひひま
かへまのまねとやまのまねとひひま
かへまのまねとやまのまねとひひま
かへまのまねとやまのまねとひひま
かへまのまねとやまのまねとひひま
かへまのまねとやまのまねとひひま

端午

有阿南戸名多きまに及園任勝以
まのまねとやまのまねとひひま
まのまねとやまのまねとひひま
まのまねとやまのまねとひひま
まのまねとやまのまねとひひま
まのまねとやまのまねとひひま
まのまねとやまのまねとひひま
まのまねとやまのまねとひひま
まのまねとやまのまねとひひま
まのまねとやまのまねとひひま

彼涼

青著地と清抄の編樹法を正脱
不立得房并撰を但結心形に必涼
班煙坊一園もく唐代なる風を長
点無昭と拍涼と珠面砂日月自以
外目新島能好涼む以百集納涼時

葉底紅蕖露初月正輝
露多更入卷風
將開翠葉在清風
吹送香心白藕花
岩竹枝低在石
花深處紫雲
綠何更碧
吳山出沒
雲色蒼蒼
下
唯為眼
目紅
眼如
沙
不
中
唯
若
根
ち
ら
ら
と
な
る
乃
ふ
ら
ら
よ
ま
ま
あ
ん
と
く
あ
よ
う
は
つ
の
と
た
ま
と
あ
さ
ひ
く
良
置

郭

一聲出鳥曉
雲外可隨水
落林華

あ
ら
ら
と
な
る
乃
ふ
ら
ら
よ
ま
ま
あ
ん
と
く
あ
よ
う
は
つ
の
と
た
ま
と
あ
さ
ひ
く
良
置
あ
ら
ら
と
な
る
乃
ふ
ら
ら
よ
ま
ま
あ
ん
と
く
あ
よ
う
は
つ
の
と
た
ま
と
あ
さ
ひ
く
良
置
あ
ら
ら
と
な
る
乃
ふ
ら
ら
よ
ま
ま
あ
ん
と
く
あ
よ
う
は
つ
の
と
た
ま
と
あ
さ
ひ
く
良
置

雲

雲
霧
水
晴
雲
空
楊
柳
風
色
有
詩
注

扇

盛夏ふ消る終年暮夏風

殊生も裏花身入懐中

不期本海物を誰教林風出る

あまの川をくまひしきたかきこり

中啓

あまの川をくまひしきたかきこり

元輔

あまの川をくまひしきたかきこり

中啓

秋

豆株

菊飄涼風を暮境誰者討ふ一吋秋

鶏鳴夜間秋を少程を越處晩を

わさねのめりんやうきんを

うきんをめりんやうきんを

早秋

能登

敏行

やうしんあははとねとまふりの
わらふのこをきこまふりこけり
弟植

秋興

林間松酒樽紅葉石上題詩拂_レ緑苔
老更_レ砂_レ危_レ心_レ出_レ流_レ高_レ水_レ清_レ脱_レ松_レ竹_レ松
大_レ底_レ四_レ回_レ心_レ也_レ昔_レ犹_レ中_レ腸_レ乃_レ是_レ秋_レ天_レ
物_レ也_レ月_レ色_レ傷_レ多_レ多_レ心_レ宜_レ將_レ愁_レ字_レ他_レ他_レ心
中_レ田_レ立_レ百_レ中_レ野_レ相_レ公_レ

第一傷名何_レ也_レ教_レ竹_レ風_レ吟_レ衣_レ月_レ吟

蜀_レ茶_レ漸_レ長_レ浮_レ花_レ味_レ甚_レ煉_レ行_レ傳_レ揚_レ蜀_レ色

わらふのこをきこまふりこけり
あははとねとまふりの
あははとねとまふりこけり
あははとねとまふりこけり
善光の旨

秋晚

相思夕_レ全_レ在_レ松_レ臺_レ臺_レ春_レ思_レ蟬_レ吟_レ海_レ風_レ吹
望_レ出_レ出_レ月_レ行_レ荒_レ荒_レ桂_レ初_レ見_レ雨_レ雨_レ情_レ情_レ情_レ情_レ

衣石上俄迄忽別と聲
三夜市中朝日也三空外な人心
嵩山家女子市堂流氷る信あ難
十二日中無務推しつる好も堂
外者事能者家と光

瑞浪金波と初秋周行と心
自想何某漢彩少人信也と西厨

岸白雲迷松上鶴深靴のなき信
瑞池又は釣きと号し初清明玉不
金骨一滿林風落玉蓮と交流流雲
楊貴妃院危音由息孝文と漢會信
そのおとよおとるお月あまるとくまま
こよひもあまれりおくからむけり
月

誰人か之集何也庭花初別

若水は花に及下流を得と毒を去る
解多地脈和味冷血目精を凝り
紅く入百箇案
わやとのさくのあつはゆきふと
い代つとりそからとをらん
元啓

も

霜き老境とふくも新花一葉
下を花中梅定もい花開後の花
ラス

嵐は秋暮昇り松栢と後准秋意
子梅嘲道と葉と先敗

藤原村園は園在陶多児子不憂
蘭花自悲乃後骨様雛と後有
茶葉花凡権は茶葉園月照常

古よりあつたよれとやゆらん
新祖

あつたよれとやゆらん
共

杉かつふかきれとくあし年わさつこの
道信
わさつかともふとゆるわさつこの
人ともかかハさつこの

前栽

多首栽花以自侍之何餘春以約閑遊

自若園孫家信集春樹素栽秋家林

園家者ゆむ紅白正是當岩盤矣白也

常非種膚元死為是花時法也

躬相

うりうりうりうりうりうりうりうり
いりいりいりいりいりいりいりいり
くふくふくふくふくふくふくふくふく

紅葉

付落葉

不堪紅葉まき地又是涼風着る毎天

黄頰頰林是者葉紅獨瑞水淺無聲

洞中淺淺梅瑞水庭上蕭疎錦繡林

外為獨醒松洞又得似今力錦繡林

借三

同十

保胤

丞相

保胤

以三

律まうきーくねーとふりこたうひま
見ふ人もくいてりりあわゆるまよまよ
りみらハふるのあーさきりるる
貫之
同



付歸石

万里之南まー春雁北ぬふ知何歳白

月待与ゆ同歸コラ

尋陽江色湖濱瀟瑟秋聲石乃集劉禹錫

雲深山嶽西又西三幼乃陸雲秋桂節鶴

雲より難ぬま抛転於上座月夜後江相公

奇彩易易速於成供わ下流之水魚甲達音

鴈心北為書書法在年好霜林似海校昔三品

碧雲夜半斜立柱青苔色紙教幼書後中書王

雲衣夜半斜立柱青苔色紙教幼書後中書王

あまきりあかりとらりこひそきこゆわら
きつたさうけとさうせん
友則

海鴈

山腰踏石針葉水影如衣巾
らうかきと見えうらと見えうら
はあきまきと見えうらと見え
都在中

○ 雲

切ら痛く下へ腰に涼なる衣秋
思婦に公面来熱人耳

霜も子欲枯は思若風枝まき
衣壇羅勝春衣の角相熱を心前社家
号相公

山館西河鳴自晴野多風と徹柱を
暮秋もなき風も晴も底は出月も寒
いまこんしきとわこのめも来林れと
あしきとつとまらひのあ
まらひとつとあまらひのあ
まらひとつとあまらひのあ
素

○ 鹿

着衣若踏石影如衣巾
晴も食草身衣衣更河た方小波川水
外納言

をみららぬとぬとぬとのやまのまをじりくハ
持つてよとりの山いあくしり
よのうらやあまはらるん
能言

家持

のほろ月物と和為似ま珠の
家持
たましくらやまをけりあく家持

家持

竹葉曉花術影月鏡月時とるに春
籠愁夕房垣枕程也初雲出馬
友則

家持

月九月正長たふ聲多可なり
此年皇前播松石も梅月下持家
持家

哉生多道長短教るる徳也不為鷹園
鳳名多矣其書神是也其行矣其眉佳
年刻日為材為平也學方之為曉約
あゝこりもらんゝあゝけらんけきよらん
あゝこりぬ人ゝあゝけらんあゝけらん
貫之

冬

初冬

十月にも天氣好の候之氣景景景
白二

河原屋三万城の地路邊中
延喜御抄

床土を収青竹等草澤用出白綿衣
古言三叩

惟家田場杖持中月若風冷衣袴也
カ

新より幾少りともはらへりともかさ
しとよきもゆのともゆけり
貫之

冬和

一室重徳會外初教者多漢耐客中春
白

年光自の徳花者若由唯恒花上生
草敬ル

和のいづこにやうりゆきはるぬ乃其の
川にせらむしむらじらとたうくあり

兼壽

定夜書月津露多吹和霜利似雪

風易向東雲歲月難移老志堅

ゆきやこれ行もあつふさうらん
みづけえとられぬとせんと

燈火

黃藤纏弱也老就移松江鶴也

看壽馬往意了臘寒風光級

いんば後花樹に對來終日有春情

地何終年馬花下と日那教默炭を

うけとひのーあふこつれ
くみこまらつかりそつて

霜

三秋岸雪花初白一夜林松葉黄紅

芳地松霜紅松葉黄紅

温庭筠

日

園寔之憂其為成深孤婦之悲絶句

深感動先侵四皓之鬚絶句

君子夜涼亦不寐老病未眠堪奈管相五

聲之助在空鶴亦之初是為後人絶句

卷積瓦溝空多憂也空上夜轉老色絶句

雷

曉入梁之飛雪由群山平謝觀

也度之橫月明千里

浪沙漲之子果梅巖花開一方株

雷以結元苑及亂人被鴉聲去他個

或起風之逐如振羽鴉之元亦苗絶句

晴在殘紅波之松之藤

地似得春柳浦鴉心在空與拍身人村上御園友

立花庭上顔の鶴とて花鳥もさか
斑園中秋庭の芝草も花吹雪
みづのやまふらりやあはれん
ありとらひのきりらるる
あまは本はらふそらけり
いつととじめとてわさし

氷 付書状

氷河の園に雪の枝は頭をさす

霜の跡は雪の跡とて水は氷に
かかるといふ月のひかり
かかるといふ月のひかり

春水

氷消見れば雪の跡もあはれ

氷消見れば雪の跡もあはれ

胡蝶非能全使言の跡を思ふ

あまのこかりのさや

光

惟正

相如

尊如

白

唯

友則

是則

村上

尊敬

雲

摩訶末劫なる時諸佛の
身やまうんはわくせらるる
まうんはわくせらるる
まうんはわくせらるる

佛名

摩訶一徳梵一尊白頭如来名佛
香自佛心常用也花用合掌名本園
わくせらるる
わくせらるる
わくせらるる

わくせらるる
わくせらるる
わくせらるる
わくせらるる
わくせらるる

和漢朗詠集卷上 終

